ネパール・フィールドスクール　講義録２
2009/03/15

Remittance and Long-distance Migration

Jagannath Adhikari
5 keywords: 出稼ぎ、途上国の経済、1990 年代、労働者の需要の高まり、労働条件

近年､ネパールにおける GDP の約 15%は国外への出稼ぎ労働によって成り立っている。ますます増加する出稼ぎは、ネパールにとって極めて重要な労働形態であることはもちろん、その他の途上国の経済においても注目すべきテーマであると考えられる。

ネパールの出稼ぎ労働者の増加には､1990 年代の政変が影響している｡この時期を境目に、デモクラシーを掲げた政府はそれまでネガティブなものとしてとらえていた国外への出稼ぎをポジティブなものとして考え始めた。それに加え、マレーシアなどの発展した国が労働者を大量に必要とし始めたことも、増加の原因の一端を担っている。

もちろん、海外においての彼ら（とりわけ女性労働者）の労働条件は低い。しかしながら、それでも多くの人々は海外への出稼ぎを望み、違法の中での海外労働が頻繁に見られる。

送る側、送られる側の国が積極的に受け入れ、労働者自身も望む出稼ぎ労働は、この先もずっと続いていくことが容易に想像される。だからこそ重要なのは、たとえ違法であろうとも、それぞれの国の利益に貢献する彼ら出稼ぎ労働者の労働条件を整え、公正な権利を与えることであるという強い主張によって講義は締めくくられた。

（記録：首藤あずさ）